

平成30年度第2回 犬山市総合教育会議 会議録

日時：平成30年10月15日（月）午前9時

場所：犬山市役所503会議室

◆出席者

市長 山田拓郎

教育長 滝 誠

教育委員 教育長職務代理者 高木浩行 委員 紀藤統一 委員 田中秀佳
委員 奥村康祐 委員 小倉志保 委員 堀 美鈴

アドバイザー 県立犬山高等学校 校長 祖父江泰浩
県立犬山南高等学校 校長 福島 宏

事務局 【経営部】

江口経営部長

企画広報課 松田課長 井出課長補佐 小枝主査

【教育部】

中村教育部長

小島子ども・子育て監

学校教育課 長瀬課長

神谷主幹兼指導室長

子ども未来課 間宮課長

文化スポーツ課 上原課長

歴史まちづくり課 中村課長

記録者 井出修平 小枝俊人

傍聴者 2名

◆次第

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 今後の教育施策の取組について

(2) 平成30年度以降の学校区別児童生徒数の推移について

(3) 平成31年度教育関係主要事業について

4 自由討議

5 その他

6 閉 会

◆会議要旨

議題(1)今後の教育施策の取組について

資料1を用いて、事務局より2018年度から2020年度の3か年度における読解力プログラム内容及びロードマップについて説明がされた。

議題(2)平成30年度以降の学校別児童生徒数の推移について

事務局から、資料2を用いて、児童生徒数の推移については、今後減少していき、平成36年度が大きなターニングポイントと想定される旨の説明がされた。このことについて、各委員から意見が出された。

【主な意見】

- ・適正な人数、クラス数があると考え。教師への負担、維持管理費等を踏まえて進めていかなければいけない。
- ・部活動は子どもたちが高まる部分。色々な方法があると思うが、継続できるよう考えていただきたい。
- ・児童生徒数が減るからこそ、通学路の安全のために予算を確保していただきたい。
- ・早い段階から、地域、市民と対話しながら着地点を探っていく必要がある。
- ・教育にとどまらず、地域をどう発展させるのかという問題。市長部局内の議論も教えていただきたい。
- ・今井、栗栖地区に定住できる施策を進めて欲しい。

議題(3)平成31年度教育関係主要事業について

資料3にある平成31年度主要事業について、教育委員会4課より説明がされた。

【主な意見】

- ・主要事業について意見はない。予算に関して、文部科学省が「置き勉」を認めたこと、中学生のカバンが大きなナップサックへ変更したことを契機に、ロッカーについて考えてはどうか。個人のロッカーを設置することが望ましいと考える。
- ・「置き勉」に関連して、盗難防止のため、各教室が施錠できる体制が必要ではないか。

自由討議

特になし。

◆会議録

司 会 (松田企画広報課長)	皆さま、おはようございます。
出席者	おはようございます。
司 会	<p>本日は早朝より、この会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>それではご案内の時刻になりましたので、ただ今から平成30年度第2回犬山市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>開催に合わせて、1点お願いを申し上げます。</p> <p>本会議におきましては、犬山市総合教育会議運営要綱第4条に基づきまして、公開とさせていただきます。</p> <p>あわせて、インターネットによります映像配信サービス「Y o u T u b e」でございますが、こちらの中継も行っています。前もってご了解をいただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、山田市長よりごあいさつをお願いいたします。</p>
山田市長	皆さん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
山田市長	お忙しいところ、総合教育会議ということでお集まりいただきまして、ありがとうございます。

	<p>大変今年暑い夏で世の中は色々、「災害級の暑さ」で大変だったわけですが、急に最近、朝が涼しくなりまして、季節が移り変わってきているな、とかなり感じるわけですが、皆さんもご承知おきいただいていると思いますが、そういった暑さ対策も当初の計画の期間を短縮して、小中学校のエアコンの設置を進めるということで、先日の9月議会の冒頭でも設計の予算がお認めをいただきましたので、今、設置を進めているところです。今後、国の補正予算の動きもございますので、当然、私どもとしても、そこに手を挙げて、財源確保の努力をしながら来年の夏前を目標に設置を進めて行けたらと思っているところです。そういうことは概ねご承知置きいただいていると思いますが、私どもとしてもしっかり努力をしていきたいと思っておりますので、また皆さま方にもご理解をいただきたいと思っております。</p> <p>今日も議題がございますので、また皆さまには闊達なご意見をいただきまして、有意義な会議でありますことをお願い申し上げまして、私からの冒頭のあいさつとさせていただきます。では、よろしく申し上げます。</p>
司 会	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、滝教育長、よろしくお願いいたします。</p>
滝教育長	はい、皆さん、おはようございます。
出席者	おはようございます。
滝教育長	<p>連日、40度に迫るような、暑かった今年の夏でありますけれども、その暑さから子どもたちの命を守るための対応に追われたーそんな日々が続いた夏ではなかったかなと思うわけですが、今から思いますともう遠い昔のような気がしてならないわけでありまして。9月に入ると暑さが和らぎ、10月に入ると少し肌寒さを感じるような状況になって参りました。季節は確実に秋に、そして冬に向かっていくな、ということを感じるわけですが、1年後にはまた再びあの暑い夏がくるかなと思うと、涼しい中にも汗が出るような思いがしている状況であります。</p> <p>不幸中の幸いと言っていいかどうか分かりませんが、先ほど市長のあいさつにもありましたが、小中学校へのエアコン設置については、3年を2年、そして2年を1年に大きく前倒しをするという大英断を下されました山田市長には、改めて敬意を表したいと思っております。本当にありがとうございます。</p> <p>小中学校の教育活動でありますけれども、10月の5日に前期の終業式を終え、10月の9日には後期の始業式を迎えまして、1年の折り返し地点にいるわけでありまして、現時点では大きな混乱もなく、順調に進んでいるというふう聞いております。10月から11月にかけては、様々な行事が計画をされております。教育委員会としましては、各学校の教育活動と市全体の教育のレベルアップを図って参りたいと思っております。市長におかれましては、健康に十分ご留意をいただき、11月の山場を乗り切っていただきたいと思っております。</p> <p>今日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
司 会	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>本日はアドバイザーといたしまして、犬山高等学校の祖父江校長先生、そして犬山南高等学校からはこの4月にご着任をされました福島校長先生にもご出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
祖父江校長	お願いいたします。
福島校長	お願います。
司 会	<p>それでは、議事に入る前に本日の資料の確認をさせていただきます。既にお手元には配布させていただきましたが、次第、そして名簿に続きまして本日</p>

	<p>は資料が3点ございます。まず資料の1につきましては、「読解力向上プログラム トスアッ プ 2018」でございます。続きまして資料の2でございます。こちらは、「平成30年度以降の学校区別児童生徒数の推移表」でございます。最後、資料3につきましては、「平成31年度教育関係主要事業」のご案内となっております。資料についてはお揃いでしょうか。</p> <p>なお、1点お詫びがございます。名簿でございますが、構成員の上から3番目、高木委員のところでございます。本来であれば、「教育長職務代理」という記載をさせていただくべきところが抜けておりました、申し訳ございません。卓上のお名前には「教育長職務代理」と書いてございますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは議事に移らせていただきます。</p> <p>議事につきましては、「犬山市総合教育会議運営要綱」第3条で基づき山田市長、お願いいたします。</p>
山田市長	<p>はい。それでは私の方で議題を進めさせていただきます。</p> <p>議題を1つずつ委員の皆さんにご意見をいただきながら進めていきたいと思いますが、委員の皆さんの意見交換が済んだ後に、犬山高校、犬山南高校の、アドバイザーに来ていただいております両先生にも、ご意見をその時点でお伺いしますので、もし特に意見があれば、そういったタイミングでご発言いただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>それでは議題の1「今後の教育施策の取組について」ということで、まずは事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>お願いします。資料の1「読解力向上プログラム トスアッ プ 2018」をご覧ください。このプログラムの本質は幼児期から義務教育年代の子どもたちを「どのような手法でどこまで導くのか」というタイムラインを明確にし、基礎的な読解力を身につけるために「読む・書く・聞く・話す」のそれぞれの観点で目指す具体的な姿を示すと共に、就学前の指導との連続性、系統性を確立するための支援方法の開発や具体的な授業改善への支援を行うものです。授業改善は永遠のテーマとして、教員の全エネルギーを注がなければなりません。経験値が少ない教員が増える中、効率的かつ効果的に成果を上げるために、目標とする子どもたちの具体の姿を示したり、保育士も含めて多くの教職員が協働したりしてゴールを見えやすくします。知識の詰め込みではなく、基礎的な読解力を基にして身につけた思考力・判断力・表現力を駆使して課題を解決していくー主体的に学び続けようとする資質の育成を目指します。この自ら学ぶ力を身につけた子どもたちは自らの感性を磨き、想像力を豊かにし、多様な人々との協働によって社会を支え、これからの時代を強く生き抜くことができます。</p> <p>資料下段、Ⅲの「ロードマップ」をご覧ください。各種の取組を大きく4つにまとめています。1つは、全教科での横断的な取組による授業過程。国語科授業改善推進委員会を中心として、図書館活用カリキュラムを2019年度中に各学校が策定します。読解力をテーマとしての授業改善を全領域において全小中学校で取り組むことを目指しています。新たに「授業づくりコーディネーター」として専門機関から講師を招聘し、その人材を派遣すると共に、読解力の研究実践校として中心的役割を果たす学校を募ります。夏休みを有効活用する手法や不登校改善策の手法として試行を始めた「家庭学習ソフト」の更なる有効活用を模索し、家庭学習との有用な連携を図っていきます。また2学期制の利点を余すことなく実感した状態で2019年度2月、2020年度12月の保護者意識調査に臨みます。</p>

	<p>2つ目は現状把握から適切なP D C Aサイクルの構築です。現状を把握したり、身に付けた読解力の状況を定点測定するためにリーディングスキルテスト(R S T)を取り入れます。2019年度は中学校1年生697人と教師50人が参加をします。読解力を多面的に測ることで、学習のつまずきの原因となる学習スキルの習得不足、基礎的な知識の定着時の気付かない学習行動の癖といった様々な要因を発見します。教師も子どもたちが読み取れていないという現状を客観的に把握し、授業での支援方法の効果的な改善に活用できます。</p> <p>3つ目は幼児期からの系統的な計画です。これまで培ってきた幼・保・小連携を活かし、言語活動の分野においても切れ目のないスムーズな移行と共に、より強固な連携を図ります。そのために、幼・保・小・中、合同の連携協議を始めます。2020年には計画の協働実施へと繋がります。</p> <p>4つ目は専門家・専門機関との連携です。研究を犬山市立小中学校が一体となって進める機運を醸成するためのシンボリックなものとして、著名なR S T開発者一新井紀子氏を講演者として招聘します。図書館の新たな活用手法を探るI C T活用教育研究委員会には、3人の専門家に参加をいただけてきました。I C T活用とメディアセンターとしての図書館の活用について提言をまとめます。また、図書館改造については、2月のアドバイザーからの指導をもとに、司書や司書教諭、図書館担当の連携が活発化してきています。南部中学校では図書館の改造後、地域協働本部の委託研究と絡めて早朝開館も地域支援本部からの派遣員で実現しようとしています。図書館の改造後は、目的としている子どもたちの利活用増大と授業での利用時間増大に繋げるべく計画を推進しています。図書館改造一言い換えれば、再活用計画の動きは城東小学校の低学年図書館へと繋ぐ計画です。これらタイムラインについては、教育委員会主導で進めるものの、学校がその気にならなければただの負担となりかねません。また、既に重点目標を取り決めている学校の姿勢も尊重しなければならぬと考えています。3か年を、「気づく」「掴む」1年目、「挑む」2年目、「生かす」3年目、として進めたいと思っています。教育委員会としての方向性をこの総合教育会議でお示しし、市当局の多方面からの支援と財政面でのバックアップ体制をお願いしたいところです。説明は以上です。</p>
山田市長	<p>はい、説明は終わりました。この件について、委員の皆さんからご発言があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>はい。特にご発言も無いようですので、今、説明のあった流れでしっかりまた推進していただくように、よろしくお願いしたいと思います。次に2件目……、1点目について、先生方、もし何かコメントがあれば。何かございますか？</p> <p>大丈夫ですか。ありがとうございます。</p> <p>2件目ですが、「平成30年度以降の学校区別児童生徒数の推移について」ということで、事務局からお願いしたいと思います。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>お願いします。資料の2をご覧ください。これらの数字は住民登録を元にした出生年度別の数です。ですから実際に通学していたり、これから入学したりする数とは誤差があります。また各小学校の人数の欄外に示した数は、公立小中学校以外の児童数で、内数となります。区域外通学者は犬山市に住民票はあるが、他市町に通学しているものです。前原・前原台地区については、中学生を含めて全て東部中学校区としてカウントしています。次の入学生からは一昨年度の入学生からは全て東部中学校と実際になります。</p> <p>1枚目、右端の表をご覧ください。「小学校児童数の年度別合計」というところ</p>

	<p>です。6年後には、小学生は967人減少します。どの小学校も右肩下がりですが、特に顕著な学校は城東小学校350人減、楽田小学校153人減、犬山西小学校160人減。小規模校は軒並み半減以下となります。池野小学校は64人減、今井小学校は10人減、栗栖小学校は11人減。最下段の表をご覧ください。「中学校生徒数の年度別合計」というところです。減少が顕著な学校は南部中学校です。6年後には125人が減です。犬山中学校は5年後ぐらいから激減をし、10年後には156人減となります。城東中学校も7年後から減り始め、10年後には144人の減となります。小中合わせて考えますと平成36年度ー2024年度と言いましょか、ここが大きなターニングポイントになるのではないのかな、と感じます。</p> <p>東部中学校の学区の見直しにおいては、教育委員会の読み通りになかなか進まず、学区の変更完了まで4年かかりました。これを考えると学校の統合や小中一貫校の開設などの大きな問題にはそれ以上の期間が必要になる、十分な準備を行うためには方針決定までの期限が迫っているように感じました。施設・設備に対する投資のタイミング等も並行して考えていく必要があるように思います。早急に結論は出せないものの、近々に早期計画を策定する必要性を共有し、まずは多方面からのアイデアを保有するための資料として本日は提出をいたしました。資料の説明は以上です。</p>
山田市長	説明は終わりました。この件について何かご意見がございましたら発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
滝教育長	この数字ですけれども、城東小学校の35年度の559の右の559というのは、これ学級数というのは559ではなくて子どもの数が559だから、学級数は16か17ぐらいかな？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	559は間違いです。すみません。
山田市長	すぐ出ます？
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	少し時間をいただきたいと思います。
山田市長	では、今、確認をしている間に、他に何かご発言があれば、お願いしたいと思います。
高木委員	はい。
山田市長	はい、高木委員
高木委員	これは単純に配慮しろとかそういう意味合いは、まず大前提として「ない」ということを最初にお伝え……神谷先生の言われた通りなんですけれども、その通りで、5年後、10年後、15年後を見通して進まないといけないという意味で多分、出させていただいたというふうに把握していますけれども。例えば本当に小規模校で言うと入学者数が0であったりとか、今言われましたように、中学校で言うと南部中学校なんかは42年度に9クラスになる。特に中学校は教科担任制ということがあるものだから、やはり適正な人数と言うか、クラス数というのは絶対必要なわけで、本当に技能教科の一例えば技術などの先生だと3学年を全部持って、というような現状が有り得るわけです。それが再任用の先生だったということも聞いたりすると、やはり結構な負担が出てくるだろう、ということは思いますし、全然別件でそれぞれの給料の方は県から出ますけれども、やはり学校を維持していくというのは、それなりの毎年毎年の管理費と言うか維持費がかかってくるものだから、神谷先生が言われました通り、そこら辺を踏まえてやはり進めていかなければならないということも思いますし、もう1点だけ、私は個人的に、市長にこれを見てもらって実態を把

	握してもらったかも知れませんが、例えば議員の方たちにもやはりこういうようなものを理解してもらって進めていくと。もしあれなら、私たちもまた意見交換とか懇談会みたいなものを持ってもいいのかな、ということはこの表を見て感じました。以上です。
山田市長	他にございますでしょうか。
紀藤委員	はい。よろしいでしょうか。
山田市長	はい。
紀藤委員	今の高木委員と同じなんですけれども、もう1つ高木委員の意見にプラスしたいことがあります。それは、中学校における部活動の問題。これは早急に考えていかなければいけないのかなど。クラス数が減れば、当然先生の数も減ってきますので、部活動を2校、3校と一緒にやっていくとか、または部活動を社会教育の分野に持って行ってやっていく方法とか、色々な方法を取りながら、本当に中学生にとって部活動はエネルギーが結集されて子どもたちが高まる部分ですので、是非、その部分で考えていきたいなと思っております、その点……。
山田市長	はい、ありがとうございます。 他にご意見、ありますでしょうか。
高木委員	いいですか。
山田市長	はい。
高木委員	今、例えば池野小学校なんかは、全クラス6学年にあるんですけれども、これが例えば36年になると70人ということになると、やはりこれは複式をせざるを得ないという人数になってくるのかな、と。それがいいのかどうかというのは、やはりあるのかなと思いますけれども、そこら辺も踏まえないといけないだろうということは思います。
山田市長	はい。ありがとうございます。 他に。
奥村委員	はい。
山田市長	はい、どうぞ。
奥村委員	先ほどの人数が減ってくるという中で、子どもたちが減るということは、通学をするのに1人で行かなければいけない地区とか、更に遠い所も出てきたりすると思うんです。そういった部分も踏まえて、今、バスですね、コミュニティバスを利用させていただいているとかそういう部分もありますが、今一度そういったものを踏まえて通学路の安全の確保のために予算とか。今でも、学校の通学路の、安全の予算をお願いしてもなかなか通らないということもあったりするので、そういったことも踏まえて、人数が減ったからというわけではなく、むしろ減るからその子たちのために「安全」という部分を確保していただけるようお願いできないかな、と思います。
山田市長	他によろしいでしょうか。
堀委員	はい。
山田市長	はい、堀委員。
堀委員	今ではないですけど、こうやって段々減っていったときに、例えば地域の方とか実際にこういう所の学校にお子さんが行くだろうと思われる方は、それだけの一例え人数でもいいのか、それとも大きい所と言うか、大きいのを望むのか、どうなのかなと思ったのですが。どのようなものでしょうか。ちょっと否定的なあれですけども。

山田市長	<p>そこは重要だと思います。ですので、学級の規模が子どもが育つ環境としてどのくらいが適正なのかというのは、色々な価値観があると思うので、それをやはり住民としっかり対話していくことが大事だと思います。対話しながらお互いにどういう環境が望ましいのか、ということの理解を深めつつ着地点を探って行く作業というのは絶対に必要で、さっき高木委員の方から議員と意見交換という話がありましたが、僕的には市民と向き合っていた方がいいと思います。鉄砲玉が色々飛んできますよ。この話をするとワーっとなるので、けどそこを逃げたら絶対にこの話はまとまらない。東小の学区を見直す時に、かなり色々な情報が飛び交ったり、色々な意見があって、あの時間の流れでも「唐突に一方的に決めた」というような感じで受け止められた方も一部みえたので。だから、さっき神谷さんからも話がありましたが、意外と、今のこのご指摘に対応していこうと思うと、早い段階からそういうキャッチボールをしていかないとコンセンサスが図れないので、私は今のご指摘については、そんなに遠くない時期にそういうキャッチボールを全市民的にやっていかなきゃいけなくなるだろうと。それには申し訳ないですけど、教育委員の皆さんも矢面に立って、みなさんも住民と対話していく覚悟が私はあると思います。住民と全く無縁の会議室で一方的に決めていくというイメージがーこれがいけないと思うので。もちろんそうではなくて、皆さんちゃんと思って、考えてくださっているのは、我々は十分承知していますが、市民の皆さんのやはり意識というのは、相当念入りに詰めていかないといけないと思うので、そこは皆さんだけではなくて、私も含めてですけど、矢面に立って対話していく覚悟が必要かな、と思っております。</p> <p>他にありますか。</p>
山田市長	はい、田中委員。
田中委員	<p>高木委員からも、特に小規模校の問題はこれまで教育委員会の中でも一小規模校の維持のところですけども、私自身は、やはり地域をいかにしていくかという問題で、以前も教育問題と言うよりは、市としての、教育にとどまらないで、地域をどういうふうに発展させていくかというところで、それは学校教育課だけでは話がまとまらないということを常々思っていて、教育委員会の中で色々話して、例えば市街化調整区域の問題で、新しい住民を一例えばどういうふうに住住できるかというところも検討していかなければいけないと。そのことについては、先ほど高木委員からも「議会の方でも」というようなお話がありましたけれども、市長の方からも市民と対話というお話がありましたが、やはり例えば小規模校の地域で住民の方がどういうふうに思っているのか。全国的な状況を見ますと新入生の数がだんだん減ってくるということになると、どうしても統廃合の問題というのが議論に上がるわけですけども、学校の維持ということについて地元の方々がどういうふうなことを思っているのかー学校に対する思いとか。その維持をするために、やはりどういうふうにしたら人口を維持できるかというところー市長部局の方でもどういう議論をされているのか、ということは、また教育委員会にも教えていただきたいと思っておりますし、我々教育委員としても市民の人とのまきに対話と言いますか、どういうふうなことを思っているのか、というところをふまえて議論していきたいと思っております。</p>
山田市長	はい。他にありますか。
高木委員	<p>関連になるんですけど、議会でも一今の田中委員の話が出ていて、色々な一例えば農振がかかっていたりとか、栗栖の国定公園のーそういう網と言うんですか、そういうものがあって、逆に門戸を広げるような方向でやはり進めていくという施</p>

	策があって欲しいな、というふうに思います。色々な方が一例えば栗栖とか今井とかに定住できるような、そういう門戸を広げるような施策を進めていただけるとありがたいなということを思います。
山田市長	はい。 小倉委員。
小倉委員	はい。今、全国の中でやはり人数が少なくて統廃合という一小学校と小学校の統廃合、小中、中高で一貫校にしている市町村というのが少しずつ出て来ているのかな、と思うんですけど、そういう状況というのは今、全国でどうなっているのか、ということをもしお知りであれば、教えていただきたいな、と思います。
山田市長	はい。何か今のご質問に対しての情報はありますか。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	申し訳ありません。具体的に今、数字を持っている状態ではありませんので。
山田市長	また少し調べてください。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	はい。
山田市長	他によろしいですか。
滝教育長	一ついいですか。
山田市長	はい。
滝教育長	文科省が示している学校の適正規模でありますけれども、ご存知かもしれませんが、小中共に12から18（学級）一これを小学校でいきますと1学年2から3学級、中学校ですと1学年4から6という数字になると思います。これは示した表を見ていきますと、課題は幾つかあるわけです。例えば犬山中学校というのは、それからすると36年度まで大規模な状況で学校経営をしていかなければいけないという状況。それから東部中学校については、もう30年度から適正規模を下回っている状況がずっと10年以上続いていく。南部中学校は37年度から、もう適正規模よりも小さくなっていきます。当然、小学校は今井、栗栖、池野の3つが今後も小さな学校ですけれども、そうすると今井、栗栖、池野をどうしていくか。そして2つ目は、南中、東中をどうしていくかということが一つの課題かな、ということを感じるわけがありますけれども、これを例えば住民の方と協議をする或いは市民的な議論をするにしても「統廃合をするか、存続をするか」という結論を出していかなければいけないわけですが、これは恐らく平行線になっていくのではないかな、結論は多分出ないだろうな、ということを感じるわけです。そうすると、最終的にどうかと言うと、やはりこれは市長の政策判断。もちろん教育委員会として「こうあるべきだ」という姿は進言するべきだと思いますが、最終的に市長が「統廃合で行くんだ」ということであれば、「統廃合に向けてどうしていくか」ということを考えなければいけない。逆に「存続で行くんだ」ということであれば、「存続をさせるために今後どういう手を打っていくか」ということを考えていかないと、なかなか結論が出て行かないだろうな、と。これはある他市町の状況でありますけれども、市長と教育委員会が統廃合を大前提で計画を進めていった。ところが市長選で市長が交代になった、市長は「統廃合反対」。従って、統廃合の計画がとん挫してしまったわけです。しかしながら、それから数年議論をされて、市長も「統廃合に向かう」ということがあったわけですが、この辺りでありまして、色々例えば2学期制、3学期制ということも保護者からご意見を聞く場面がありましたが、なかなかこれかあれかという、結論が出しにくい、出ない。となると最終的に誰かが判断を下さなくてはいけない時期があるのかな、ということを感じています。ただ、

	<p>「統廃合ありき」、「存続ありき」ということではなくて、これから数年後の児童生徒の状況を見ながら、移り変わりを見た上で、「やはり存続をすべきである」と、或いは「こういう状況ならばやはり統廃合も考えていかなければいけない」ということを一やはり考える一つの材料にはしていかなければいけないのかな、ということとは思っています。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。他によろしいでしょうか。</p> <p>では、少し僕の方からも。</p> <p>だいたい皆さんが今、ご指摘になった点が一この子どもの減少の推移というのを見る中で、課題としては、ご指摘のあった点でほぼ網羅されてきたなと思います。</p> <p>まず、部活のあり方のご指摘がありました。これも本当にご指摘のとおりで、今、部活を一どちらかと言うと一朝をやめてある程度集約する形で進めていこうということをやっているところですが、そうは言っても部活は子どもが育つ中での重要な役割担っているのも現実としてあるので、この問題については、やはり考えなければいけないでしょうね。どうやって部活動をキープしていくのかという課題ですね。学校毎のやり方だと当然、成り立たないクラブと言うか部活が出てくるので、部活動の選択肢がなくなるわけです。この現実とはやはり向き合って対処法を考えなければいけないので。逆に言うと、更にそれを集約した形でやっていけば、自ずとそこに教員の負担改善に繋がるような流れにも繋がるのかな、と。要するに、活動を充実させながら、教員の負担も改善するという方法というのはむしろ考えられるのかな、とは思っていますけれども。そういったところ、そんなにのんびりではなくて、考えていくことが必要な、と思いました。</p> <p>それから、通学の安全ということもありました。これも重要な課題で、さりとて、では「スクールバスを回す」ということになるのと一要するにコミュニティバスは、たまたま使える子は使うと。全員が使えるようにしようとなると、バスの停留所だとか路線そのものを全部見直さないといけないので、コミュバスでカバーすることではなくて、通学の対策を考えたときには、それへの対応策を考えないと解決にはならないと思います。とは言え、スクールバスをやると全員をひろっていく話になると思うので、この話になると「じゃあ自転車通学の線引きはどこか」と一緒に、どこがスクールバスになってどこが歩きになるかというのは、なかなかこれも難しい課題になるので、できれば地域コミュニティと連携した課題解決の方法を考えていくことも必要な、と思います。課題としては、これは非常に重要な課題ですし、必ずまたこの点というのは、保護者の中からも指摘が出てくると思うので、これものんびりとしていられない課題だというふうに思います。</p> <p>それから、小規模校の話がありました。基本的には僕も田中委員と全く同じ考え方で、今まで小規模校のある地域に対して、犬山市としての定住施策というのは、とりわけ努力されてこなかったわけです。努力されてこなかった結果、「減ったから無くすんだ」ということは、やはり我々の行政の施策展開としては、それは少し頑張りが足りないのではないかと。頑張るって、頑張るって、頑張った結果、それでも人数が減っていくということであれば、対応を考えないといけないということだと思いますが、そういうことが住民にしっかりと認知されていないと「切り捨てられた」と、こういう捉え方になっていくのかな、とは思っています。その点については、はっきり言って、私も市長に就任して別に議会から言われたわけではなくて、私どもが主体的に課題だということで、むしろそういった小規模集落のこれからの定住というのをもっと積極的に考えて、その中で地域のあり方を考えていこうではないかというような流れで今、進めて来ています。ただ、それが教育委員の皆さんと認識</p>

	<p>の共有化が少しできていないので、それはさっきもご指摘がありました。そういうものを少し情報として知りたいという話がありましたが、これは申し訳ないけれど、きちっと情報共有した方がいい。今、今井や栗栖では、優良田園住宅制度というものを導入する予定で、2月議会に条例を上げる予定で既にこれまでも検討を進めて来ています。これは、一定のルールの下で、調整区域の中でも住宅立地が可能になるような、そういった条例を作って、里山の中で暮らしていくというライフスタイルを選択していただけるような制度を進めているところです。それから今井や栗栖だけではなく、調整区域に関しては、区域指定という指定をかけると、これも一定の条件の下で、住宅の立地が可能になるという制度があります。この近隣だと岩倉が既存の集落を区域指定をして、立地ができるような環境を整えています。犬山市は区域指定がゼロです。これは私も最近気付いたことですが、どこの地域を区域指定してどこをしないのか、という基準を色々考えていくのが大変だと。大変だからゼロか100かという話になるわけです。「それならやらない方がいいだろう」ということでうちはゼロなんです。ですから、どこもかしこも区域指定をするという意味ではありませんけれども、一定の区域指定をした方がメリットがあるという地域を、やはり市内全体を一調整区域の中の状況を精査して、きちんと政策判断していくことが大事だということを思っています。その区域指定の検討も今後していきたいと思っていますので、そういったことをまた皆さんとも情報共有したいと思います。松田課長、また情報共有してください、都市整備の方と。</p>
<p>事務局 (松田企画広報課長)</p>	<p>はい。</p>
<p>山田市長</p>	<p>それから小中一貫校の指摘もありましたが、これはやはり研究していく必要があるのでしょうね。ですので、また他所の事例も含めて研究していきましょう。</p> <p>それから小規模校の先ほどの話も含めて、今後の学校のあり方を色々考えて行くときに、公立の小中学校というのは、当然、選択肢としては少なくとも犬山の中でどこの小中学校を選んでも公立の学校ということで、基本的な考え方は同じなんですけれども、民間は独自の考え方に基づいて色々取り組んでいる事例もあるので、最終的に学校が維持できなくなったからやめるということではなくて、選択肢として他と差別化を図るような独自の展開ができるような—そういった民間の担い手ももし存在するのであれば、そういったところも担い手として考えながら、学校のあり方を考えていくのも重要なこと。これには学区も取っ払って、どこからでも入れる、「頼むからあそこの学校に入れさせてくれ」というような、そのぐらいの選択肢になり得るような—そういうものも僕はあるのかなと。すぐにそうするという意味ではないですけど。今後、学校のあり方を考えていくときには、安易に存続か廃止かみたいな話ではなくて、選択肢を作るという意味では「民」もその選択肢の1つかなと、私の意見ですけども、思います。</p> <p>それから最後に「市長の政策判断」という話がありました。僕もその通りだと思います。最終的には政治判断ですので、私もそうですし、教育委員会としての政策判断も出てくると思います。最終的には腹を括って考えるわけですが、その決めるタイミング、そこまで到達するまでの間のプロセスを、先ほど堀さんの指摘のときに僕も答えたんですけども、「丁寧な検討」というのがやはり前提かな、というふうには思います。決める時には決めるのだけれども、決めるまでの間の丁寧なプロセスを考えていったときに、やはり色々な意見があるんですが、その意見が出尽くすまで、時間をかけてでも出尽くすまでとことん向き合って、そういったプロセスを踏んだ後、最後はなかなか一つの着地点に—例えば半々になったり、そうい</p>

	<p>うことも考えられるかも知れませんが、そういう時も含めて、とにかく丁寧なプロセスを経ながら決める時には決めると—こういうことかな、というふうに思いますので。そういった判断をするまでの時間というものを考えると、先ほどの神谷さんの話ではないですが、そんなにゆとりのある時間ではないかな。一定の期間の中で、要するにプロセスに時間をかけるということは、それだけ早い段階から市民へのアプローチをしていかなければいけないので、そんなに時間は無いのかな、というふうには思っています。少し今、皆さんのご指摘のあった論点について、私もほぼ課題としては認識が一致していますので、また議論をして色々改善策を考えていけたらなというふうに思います。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	市長、先ほどの数字の訂正をよろしいでしょうか。
山田市長	はい。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>城東小学校、35年度、17学級です。2つ目の資料にそれぞれの学校のそれぞれの年度の学級数があります。それと比較して、そこが間違っておりました。他は合っておりました。</p> <p>それからもう1点、小中一貫校ですけれども、今後実施されるものも含めまして、愛知県では4校、2018年度ですから今年度の4月の調べです。愛知県では4校、先ほど教育長がお話されたのも多分瀬戸ではないかと思いますが。それから三重が4校、岐阜が2校、静岡が11校。学校や地域を見ても、やはり山間部が多いなどの状況がうかがえますが、もう少し詳しく調べてみます。以上です。</p>
山田市長	はい。よろしいですか。みなさん、更に付け加えてご意見等があれば。
高木委員	<p>今の小中のあれで、教育委員会で視察に行っただけです、2年ぐらい前に。奈良市が全市的にやってみえて、視察に行っただけですけれども、やはりいい面と悪い面と両方の話を聞かせて—また新しいこともあるかも知れませんが、一応、そういうこともあります。教科の先生方が2校分いるわけですね。その交流ができて、先生方には大変有効的なあれがあるけれども、逆に生徒からすると、小学校の6年間で卒業して、新しい中学校へ行って—というのが9年間継続した形になるので、小学校卒業した6年という区切りはあるんだけど、やはり小中一貫でやるとその辺の子どもたちの自覚と言うか、そういうことについては少し思うところがあるということです。ただ、今言った全市的にやった奈良の視察の時には、やはり先生方と子どもたちの距離の近さということを感じたケースはあります。</p>
山田市長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>他に何かありますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>では、先生方何かコメントがもしあれば。</p>
祖父江校長	<p>はい。では私の方から。</p> <p>最初に神谷先生から「授業改善は永遠のテーマ」ということをおっしゃられましたが、その辺りにビビッときました。この「読解力向上プログラム」というのは本当に素晴らしいものだと思いました。今、高校でも「主体的で対話的で深い学び」ということが言われています。それで私も自分なりに勉強しておりまして、「協同学習」というのを今、調べたりしているのですが、そうしますと、犬山の中学校の話ですとか小学校の話が本の中にもよく出てきます。この地区は「協同学習」の先進地域であったわけですね。評価も高いです。そういったことを私は本から知ってしまったということは恥ずかしいところですけども、もっと発信されてもいいのではないかと私は思いました。自信を持ってやっていただければいいのではないかと私は思います。今日はどうもありがとうございました。</p>

山田市長	はい。ありがとうございます。
福島校長	はい。私は、今の「児童生徒数の推移表」で一段々と減っていくというーこれは、日本全体の問題なんでしょうけれども、やはり犬山にある学校として、中学生の数が減るということは、直接的にやはり私たちの学校に来てくださる生徒数が減ることなので、数年後、非常に深刻な状態があるものですから、自分の学校に置き替えて心配になりました。また、今、小中学校の統合のことが話題になりましたけれども、高等学校においてもーこれは県の教育委員会が考えたことでしょうけれども、地域の子どもの数が減ってくれば、それを受け入れる高等学校をどう設置するのか、ということにも繋がってくるかな、と思います。県の方は今、平成26年度末に出した「県立高等学校教育推進計画」というものに基づいて10年間の計画でもって、現在は東三河の方の統廃合ということでやっているんですけども、将来的にはー私が聞いたところによると、例えばーこの地区はまだよっぽどいいですが、海部地区ですとか、尾張の方でも急激に人口が減ってくる地域があるものですから。また、子どもの数と高等学校ー受け入れ側のあり方というものを頭に置きながら、注視しながらやっていかなければいけないな、というふうに思った次第です。ありがとうございました。
山田市長	ありがとうございます。 はい。では、議題の2はこれで終わらせていただきたいと思います。 議題の3「平成31年度教育関係主要事業について」、事務局の方から説明をお願いします。
事務局 (長瀬学校教育課長)	はい。それでは資料3をご覧ください。 こちらについてはー総合教育会議は、予算の編成権限や条例の提案権を有する地方公共団体の長ー犬山市長と、教育委員さんが調整する場と位置付けされておりますので、来年度の主なー今のところ考えております主要事業を説明させていただきたいと思いますので資料3をご覧ください。 学校教育課の所管については1番と2番になります。 まず、先ほど来、挨拶の方でお話がありましたように「空調設備の設置事業」についてです。こちらについては、市内にあります小中学校、全14校にエアコンを設置するというので、方向性を転換したものになります。現在、楽田小は大規模改修の工事中でありますので、そちらの方でエアコンの設置はもう加味されていますので、残りの13校のエアコンのー今、設計中の段階でございます。それが終わりました後に工事の着工をしたいと思っています。 続いて2番の「犬山南小学校整備事業」についてです。こちらについては、ここにありますように、平成28年度末に策定しました「犬山市小中学校施設整備計画」に基づき整備を進めていくものであります。南小学校については、北舎が昭和33年、南舎が昭和48年と、北舎については市内で1番目に古い校舎になりますので、現在の楽田小の整備が終わりましたら、次に南小学校の整備ということで、来年度については、校舎の交付金をもらうために、長寿命化ー校舎がもつかどうかというものをやる予算を上げる予定でございます。以上になります。 3番については神谷先生の方から説明をさせていただきます。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	先ほどお話をさせていただいたところですので、簡単にさせていただきますが、先ほどのようなことを今、予算を取らせていただきたいということで、ここまで進めています。以上です。
事務局 (中歴史まちづくり課長)	いいですか。 それでは続きまして4番の「(仮称)犬山市文化史料館南館整備事業」につきました

	<p>て、歴史まちづくり課からご説明をします。</p> <p>こちら、現在、文化史料館別館「からくり展示館」がございます。こちらはユネスコ無形文化遺産の犬山祭の重要な要素である「からくり人形」の展示・公開を中心として活動を行っていますが、立地する土地が借用しているということと、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域に指定されております。また借用している建物の老朽化も深刻な問題になっておりますので、今の南館として文化史料館の南側の駐車場の土地に建てようという計画で進んでおります。昨年度、こちらの基本計画、基本設計を行いまして、平成30年度は、現在、実施設計を策定中でございます。来年度に関しましては、いよいよ施工というような運びで考えております。こちらの内容としましては、犬山祭の車山からくりや座敷からくり、また、九代玉屋庄兵衛さんの製作現場の公開など、また市内の中学校、高等学校の生徒によるからくり練習の場としても活用していただきまして、次世代への伝統文化継承の場としての役割を果たしたいと、そのように考えております。説明は以上です。</p>
事務局 (上原文化スポーツ課長)	<p>はい。では、続きまして5番になります。「図書館機能更新」ということで、文化スポーツ課になります。</p> <p>先ほど学校の方からも読解力向上ということでお話がありましたが、文化スポーツ課ー市立図書館の方では、今、図書館2階にある展示室であります、そちらのリニューアルを考えております。</p> <p>読書につきましては、子どもたちの読解力や国語力の向上に寄与して情報活用能力を育成するものであり、大人ー我々は、子どもが読書を楽しむきっかけをつくるために家庭、地域、学校等、社会全体で子どもが自ら進んで本を読みたくなる環境を整える必要があると考えております。</p> <p>あと2階の展示室のリニューアルもそうですが、楽田小学校のふれあい図書館もリニューアルということで、ふれあい図書館におきましては、学校図書館と市立図書館の連携拠点として位置付け、各小中学校へ今後は情報発信していきたいというふうに考えております。また、ハード的には、今のことなんです、ソフト的には現在、子ども俳句教室を今年度から始め、来年度以降も継続予定と考えております。</p> <p>更に、これは市長からも昨年度、実施計画でお話がありましたが、「子ども司書の養成」ということで、「子どもたちが自ら本の知識を学び、本を友達に届ける方法など、実践を交えて楽しく学び、学校で活躍する図書リーダーを育成したい」ということで、今年度新たに「子ども司書講座」を開講し、来年度以降も継続して続けたいというふうに考えております。これらにつきましては、「子ども読書推進計画」というものが平成25年から運用を開始しておりますが、今、改訂作業をしております。来年度4月を目途に改訂ということで、これら読解力の向上に繋がる部分につきましても、「子ども読書推進計画」に盛り込み、事業展開を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
事務局 (間宮子ども未来課長)	<p>それではナンバー6です。「児童クラブ移設事業」になります。子ども未来課の所管する事業でございます。これにつきましては、概略が書いてございます通り、児童の安全と、保護者の安心のために、現在、児童館・児童センターで実施している児童クラブを、小学校の余裕教室等へ移設するものです。昨年事業として整備をしまして、今年度頭から東小学校に移転しました。今年につきましては、羽黒小内に春から移設するために準備を進めているところでございます。31年度予算では、犬山北小と楽田を移設するための準備を進めておるところでございます。説明は以上です。</p>
山田市長	<p>説明は終わりました。これについて、皆さんからご意見があればご発言をお願い</p>

	したいと思いますけれども。いかがでしょうか。
紀藤委員	よろしいでしょうか。
山田市長	はい、どうぞ。
紀藤委員	<p>本当は自由討議のところでもと思ったんですけれども、予算が伴うということで、ここでお話させていただきたいと思います。1番から6番までのこの事業については何の問題はないかな、と僕は思っていますけれども、もう一つ学校の施設の関係で、議会でも話題になった「子どものカバンが重い」ということが話題になっていますね。教育委員会では、もう数年前からその話題は学校訪問の度に出て、学校に本箱を置いて、そこに置いておくのはダメなのかということで、「持ち帰らなくていいものは置いておくんだよ」ということでずっときているわけですが、施設を見ていると、子どもたちのロッカー自体がもう小さくて、今、文科省が勧めているように「置いていきなさい」と言われてもどこに置いていくのか、という問題があります。それからカバンが変わりました。中学生だと大きいナップサックになって、またそれが下に落ちているという状況なんです。だから、この際、ロッカーの改修をするのか、それとも新たにロッカーを設置して子どもの持ち帰るものをそこに一時保管して常に使えるようにしていく、そんな取組も今後していかなければいけないのかなと思って。調べてみますと子どもの体重の15パーセント以下に必ずカバンの重さをもっていきなさい、ということだけでも、教育委員会で見せていただいた資料を見ると、やはり15パーセント以上、20パーセント近くのカバンを背負っている低学年の子がいますので、早急にこの辺のところも検討していただけたらなど。もう多分31年度予算のところはこういうふうに進んでいると思いますけれども、これを見せていただいて、更に追加ができればお願いしたいな、と思っています。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。</p> <p>他に何かございますか。</p> <p>はい、田中委員。</p>
田中委員	<p>今、紀藤委員からありましたが、関連でかばんのところ、いわゆる置き勉の問題ですけれども、よくこれも話題になるのは、置いていく場合の「盗難」の問題があるという話で、今月も教育委員会で話し合いになったんですが、そこで私自身が、小学校、中学校の時に全ての教室に鍵があったんですけれど、それを前提でお話をしていたのですが、犬山市の小中学校では教室の所に鍵がないと。施錠ができないようなことが普通であるというようにお話を伺ったんですけれども、今後、改修の際には置き勉やロッカーの問題もやはり非常に重要だと思いますし、併せて盗難防止の方法としての一例えばドアに施錠ができるような体制も、これも整備の一環としてひょっとしたら関わってくるのかな、と思いましたので。</p>
山田市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他にご意見ありますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>はい。ロッカーの問題というのはどうなのかな。課題としては紀藤さんのおっしゃった通りで。</p>
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	よろしいですか。
山田市長	はい。
事務局 (神谷主幹兼指導室長)	<p>紀藤委員がおっしゃられたように、数年前から課題にさせていただいたので、そのように早く始めています。いち早く取り組んだ学校は、もう既に今年度の頭から、このことが大きく話題になる前から、「全ての教科を置いていってもいいよ」とい</p>

	<p>うようなシステムを作っていました。それに合わせて手作りではありますけれども、ロッカーを作成していました。少し遅れてスタートした学校もそれぞれの学校の予算の中ではありますけれども、簡単なカラーボックスを購入して廊下に設置し、2学期から使っているというふうに聞いています。今度の学校訪問等で周ったときにまた確認していただこうと思っています。</p> <p>鍵に関しては、やはりご指摘のように一元々はあったのでしょうかけれども、長らく使っている間に破損しているところが多いようです。これを機会にある中学校ではすべての学級に鍵を付けた一学校の予算で付けたというところもありますので、そのようなところは応援をしていただけるとありがたいな、とは思っています。</p>
山田市長	<p>そういうものは、上げていってください、必要な予算は。そんなに莫大なものがかかるとは一鍵のものにもよると思いますが。</p>
紀藤委員	<p>よろしいですか。</p>
山田市長	<p>はい。</p>
紀藤委員	<p>学校訪問で見ていると、いらなくなった本箱とかそういうものをなんとなくやっているんだけど、ぐらついているものとか、固定していないものもあるので。それから資源回収でカラーボックスを買ったということも聞きました、その費用で。そういう努力はしているんだけど、実際にはカラーボックスって数年しかもたないですね。だからきちんとした形で、今後、計画的に進めていかないと個人のロッカーとして使わせるのか、共同で同じ教科書を並べるのか、それぞれやり方は違うと思いますが、紛失があってもいけないし、それから友達の間違って持って行ってもいけないので、やはり個人のロッカーの設置が一番望ましいのかな、と僕は思っております。</p>
山田市長	<p>そこの辺りも少し工夫して、現場でまた必要に応じて進めてください。</p> <p>他によろしいですか。はい。</p> <p>アドバイザーの先生方、何かもしあれば、いいですか。</p> <p>はい。では、議題の3は、これで終わらせていただきます。</p> <p>続いて自由討議ということですが、皆さんから何かテーマがあれば、またご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>はい。今日、結構、子どもの数の推移の中で、かなり色々な課題も皆さんのご意見が出てきましたので、自由討議の中でも通ずるようなお話だったと思います。また、議論したいと思います。</p> <p>では、自由討議も特にご発言がないようですので、これで終わらせていただきたいと思います。</p> <p>「その他」で何か事務局の方からありますか。</p>
事務局(小枝主査)	<p>次回の会議につきましては、1月の下旬から2月の月上旬を予定しております。また日程の調整がございましたらご連絡をしますので、よろしく申し上げます。以上です。</p>
山田市長	<p>はい。それでは、次回は1月下旬から2月上旬頃ということですので、また関係の皆さんにはよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>それでは、今日予定しておりました議題は全て終わりましたので、これを持ちまして総合教育会議を閉じさせていただきたいと思います。</p> <p>皆さん、ありがとうございました。</p>
<p>< 閉 会 ></p>	